

◆今年度より、コレクションのバーチャル化・デジタルアーカイブ化に取り組む事業を実施。
令和5年11月末に、「バーチャル美術館」を開設予定

背景・課題

- 府の所蔵美術作品(約7,900点)は、国際性豊かで価値あるものが多くあるにもかかわらず、それらを鑑賞できる場所や機会は限られている。現在、活用できているのは毎年約1,000点
- さらなる活用については、これまでに知事が発言しているほか、議会やマスコミでも度々取り上げられている
- 府民や来阪者だけでなく、日本全国、さらには世界各国への魅力発信が可能となるよう、オンラインでの鑑賞等、新たな工夫が必要
- 万博推進局が進めている「バーチャル大阪」を活用することで、大阪の都市魅力の発信に貢献できる。

取組概要

- 大阪・関西万博をインパクトに、府所蔵作品を活用したバーチャル美術館を開設し、国内外に広く鑑賞機会を提供することで、現代美術や大阪の魅力を発信
- ➡さらに、大阪への誘客と万博の機運醸成を図ることで、大阪のさらなる成長につなげる

事業内容

- ◆約7,900点の作品をデジタルアーカイブ化し、主要作品による「バーチャル美術館」を開設。国内外に魅力を発信
- ◆万博に向けた機運醸成として、「バーチャル大阪」を活用し、「バーチャル美術館」を大阪の都市魅力とあわせて効果的に発信
- ◆その他、バーチャル美術館の取組みとして、WEB鑑賞会を実施。万博開催年までに多くの人々に鑑賞の機会を提供

